

「メディア授業について（第二回学生・教員懇談会）」（11月11日～24日実施）には、貴重なご意見ありがとうございました。約70名の方から寄せられた意見は文学部教職員の間で共有しました。

以下、意見の概要（Ⅰ～Ⅳ）、およびⅠ～Ⅲに対する文学部としての見解・対応（◆部分）を示しました。来年度もメディア授業は継続します。今回のアンケートをふまえ、より充実した学びの場が展開できるよう、文学部は努めて参ります。お気づきの点、意見、要望、提案等は、各コースの学生委員、あるいは学務室まで随時お寄せください。皆さん、ともに学び続けましょう！

Ⅰ 対面授業に適した科目とメディア授業に適した科目について

- ①文学部の共通基礎科目は受講者が100人を超えることも多いので、収容可能性等に鑑みてメディア授業（オンデマンドか同時双方向）が望ましいかもしれない。
- ②その他の講義系の授業については、その授業のなかでリアルタイムでの双方向性がどの程度必要なのかによるので、一概にはいえない。
- ③語学系の演習科目（会話の授業も含む）、学生が発表し、議論を行う講読タイプの授業（人文科学入門も含む）、実験や実習系の科目については対面が望ましい（少なくとも同時双方向であることが必要）

Ⅱ 対面授業とメディア授業の割合について

- ①全体の割合としては、おおむね週に1から3日は対面を希望する学生が多く、平均すると週2日程度は対面で行うことが望ましいということになる。
- ②同じ科目のなかで、対面とメディア授業を併用することには肯定的な意見も否定的な意見もあり、その割合も授業内容に依存するので、一概にはいえない。
- ③一日のなかで、対面と同時双方向のメディア授業が混在すると学生の授業が困難になるので、否定的な意見が多い。

Ⅲ 対面授業とメディア授業を組み合わせる場合、どのような形が望ましいか

- ① 家に戻らず学内で同時双方向オンラインを受講できるスペースを大学側が確保する
- ② 対面授業を行う曜日を限定し、対面授業をその日に集約する（そしてその日以外の授業はすべてオンラインにする）

◆Ⅰ～Ⅲをふまえた、「対面授業とメディア授業のミックス」に対する文学部の見解・対応

・対面とメディア授業をミックスさせないで、どちらか片方だけにすることを望む学生も一定数いたので、「ベストミックス」とミックスを前提にするのではなく、そもそも「ミックスさせない」という選択肢も検討すべきだと思われる。

・対面授業の曜日を一律にすると密な状況が発生する可能性がある一方で、学部ごとに分けるか、あるいは、学部のなかでコースごとに分けるかしたほうがよい。しかしこの方策はカリキュラムの全面的な見直しを必要とするので、学内におけるオンライン環境を整備するほうが現実的かもしれない。

・文学部内におけるオンライン環境の整備については、今年度、同時双方向型授業を受けるための部屋を用意していたが、利用者のほとんどは、普遍教育科目を受講する学生だった。次年度以降、対面授業

が増えれば学内で同時双方向型授業を受ける学生も増えていくので、同一科目の受講生が同じ部屋を使うことができれば、学生同士の交流のきっかけになることも期待される。以上のような観点から、普遍教育でも部屋を用意してもらえよう、文学部から要望を出した。

IV すぐれたメディア授業とは？

(1) 授業のフレームワークについて

学生のタスクや進捗状況の管理・学生側の不安を払拭する仕組みがある。

- ・視聴状況と出席の確認方法について説明がなされる。
- ・対面授業でオンラインでの出席も認められる。健康不安、地理的、経済的な問題が解決する。

(2) 授業コンテンツに関すること

①授業の進め方（方法・構成・時間配分等）に関する工夫

- ・画像が効果的に使用されている
- ・一動画の時間を適切に調整するなど、適切な時間配分がなされている。
- ・動画の内容が別途レジュメとしても配布される。
- ・教員の顔が見える

②教員と学生、学生同士のコミュニケーション（質疑応答やディスカッション）に関する工夫

- ・次回までの予習が適切に設定されており、授業日には teams を用いた同時双方向授業の中で、意見交換ができるよう工夫されている。効率的な学習達成と、教員と学生、学生同士のコミュニケーションが果たせる。
- ・他の受講生の感想や質問を授業内で共有することで、他の人の考えを知ることができる。

(3) アウトプットに関すること

提出物（課題・レポート等）、小テストの内容、出題方法、期限等に関する工夫

- ・毎回の授業において課題期限が一定している。
- ・別途関連文献・資料が提示されて長めの課題が求められる週は、講義自体はないといった工夫がなされている。
- ・丁寧なフィードバックがなされる。課題の締め切りを、次の授業日の前日に設定し、質問に対する返答がある。
- ・同時双方向で小テストが行われることにより、講義のポイントが明確になり、理解が定着した。
- ・クイズや小テストの活用によって、理解が深まった。

(4) その他（メディア授業に関する要望）

- ・教員が使用するメディア（ツール）の形式を揃えてほしい。多くはそうなっているので問題ないと思うが、オンデマンドなら moodle、双方向なら teams、という風に統一すると良いと思う。
- ・Google classroom は、單元ごとの管理ができず、テストの形式が moodle と異なるため、利用に負担が大きい。

- ・ 教員、学生共にツールの講習が必要。画面共有の方法、チャットの方法、ミュートや背景の設定方法など、そのような授業を設けてほしい。
- ・ 連絡方法の統一の要望。moodle でのアナウンスメント、teams での連絡、学生ポータルに掲示板、もしくは個別メールなど、どれか一つにしか連絡が提示されていなかったり、もしくは重複していて煩雑なことが多い。教員から teams で連絡をする際には、メンション機能を活用するように周知してほしい（投稿だけでは通知がこない）。
- ・ 簡便なフィードバックの方法を、ツールに設定してほしい。教員ごとに、ビデオの音が小さい、画像が見にくい、操作がわかりにくいなど、視聴する際にささいなストレスがある（学生側からすると、メールなどで声を上げるほどではないと遠慮してしまう）。たとえば moodle の画面下に teams のフィードバックのように「音声品質はどうでしたか →答えを書き込む」といった設定はできないか。
- ・ 学生の通信環境を整えるためのサポートがほしい。PC のスペックの問題で、同時双方向が苦痛の人に対しては、「ビデオの着信をオフ」にして音声のみの参加にするなどの配慮がほしいが、こうした授業は対面授業がふさわしいと思われる。